

第 5 回えにわ多文化共生推進市民会議 議事録

日時	令和 8 年 8 月 24 日(月) 18:30~20:00
場所	市民活動センター(えにあす内)2 階 8-1、8-2 会議室

出席者

委員 15 名(欠席:3 名)

出席者氏名	市民会議 役職	所属
青 晴海	座長	北海道文教大学 副学長
後藤 章夫	副座長	恵庭市小中学校 校長会(恵庭小学校 校長)
栗野 紅		和光町内会 文化部長
吉田 豊		恵み野西町内会 副会長
山崎 秀樹		恵庭国際交流プラザ 副会長
水野 みどり		恵庭に暮らす外国人と地域をつなぐ会 代表
平井 梓		認定 NPO 法人 まちづくりスポット恵み野 事務局長
古岡 昇		日本医療大学 理事長補佐
村松 良太		学校法人リズム学園 あいおい子ども園 園長
山田 益		(製造業)株式会社ロバパン 総務部 管理課 係長
齊藤 英樹		(介護)医療法人盟侑会 介護老人保健施設アートライフ恵庭 事務長
秋月 克彦		(製造業)ユニマイクロンジャパン株式会社 総務部
グンゴブ チェスタ アリボン (代理出席)		恵庭市在住外国人(株式会社ロバパン・技能実習)
最首 みゆき		公募市民
石山 香織		公募市民

アドバイザー

出席者氏名	所属
ちー ひょんじゅう なおみ 池 炫周 直美	北海道大学公共政策大学院 教授

写真



1. 開会(中山課長)(18:30～)

- 出席者 15 名で過半数を超えているため、えにわ多文化推進市民会議設置要綱の規定により、会議が成立することを報告。
- 本会議は恵庭市情報公開条例第 23 条により公開する。

2. 議事(青座長)(18:32～)

(1)第 4 回ワークショップのまとめについて

(2)「恵庭市国際交流・多文化共生基本方針 骨子(案)」について

- 今年 2 月に実施した多文化共生アンケート及び第 4 回までの市民会議の内容を基に、事務局にて「恵庭市国際交流・多文化共生基本方針 骨子(案)」を作成。
- 背景・現状、課題、あるべき姿、今後の取組(素案)、取組の具体例(素案)にわけてまとめた。本日は、現在空欄となっている「あるべき姿」を中心に委員の皆さまより意見いただきたい。

(委員 A)

- 全体的にわかりやすくまとまっている。
- 基本方針Ⅱ①「学校における多文化理解教育の充実」については、日本人も外国人も自分から興味・関心を持つ気持ちが今後の理解に繋がると考える。具体例にもあるが、教員の研修や、家庭での経験(海外経験など)にも大きく影響される。
- 基本方針Ⅱ②「外国につながる子どもへの学習支援」については、現場でボランティアの不

足を強く感じる。言語の壁よりも、どのように接すればよいのか、何を支援すればよいのか戸惑っている。ボランティアを養成する場が必要。どちらにしても、子どもの主体的な学びがボランティアの養成にも繋がるのではないか。

(委員 B)

- 基本方針Ⅰについて、夏祭りの際に、人手が少なく留学生にも声をかけた。町内会イベントにも来てもらい手伝ってもらうのも大事。
- 基本方針Ⅱについて、鹿追町では幼稚園から姉妹都市の文化を教えている。知識や経験の蓄積が大事なので、⑤「子ども・若者向けの国際交流プログラム」にそういったものを含めてもよいのではないか。例えばALTにニュージーランド出身者を雇用するなど、姉妹都市について伝える機会を増やしてもらいたい。
- 基本方針Ⅲについて、外国人労働者の相談窓口は非常に重要と考える。声を上げられる環境を作ってあげることが大切。地域と外国人を繋げる役割として、日本語や日本文化に精通した外国人リーダーの育成も重要である。

(委員 C)

- ボランティアの育成とあるが、具体的にどう育成するのか、どういう人を想定しているのかが見えにくい。具体化するには早い段階なのかもしれないが、「あるべき姿」に明記されているとよいのではないか。
- 市民や団体が指針を見て、自分たちには何ができるのか、どこに関われるのかがわかりにくいように感じた。市民もそう思うのではないか。
- 日本人が外国人について理解するためのコンテンツが少ない。受け入れ側が学べるようなものもあったらいいと思う。例えば、自分たちの地域に住んでいる外国人の言語や文化について、学校で知る機会を作るなど。

(委員 D)

- 「文化」と聞くと高尚なイメージを受けるが、本当はもっと、性質や性格のようなもの。「文化」以外の言葉でも市民に伝えた方がよいのではないか。
- ボランティアの育成も大事だと思うが、ボランティアでくくると、そうでない人は関わらなくなってしまうように感じた。顔見知りの関係を広げていきたい。個人同士の方が確実に繋がる。
- 行政など発信する側は、情報発信はするが、届いたことを確認していない。外国人に話を聞くと、届いていなかったり知らなかったりするケースが多い。色々な人が関わって教え合うことが大事。
- 労働相談では、日本人の相談も受けている。相談窓口は外国人に特化しない方がいい気もする。

(委員 E)

- 基本方針Ⅱ①「学校における多文化理解教育の充実」について、現場でも恵庭市の良いところ、誇れるところを知る機会があるが、子どもを通じて親が学ぶケースも多い。例えば多文

化共生について知る機会を作り、外国籍の家族が参加し、その通訳に大学生が参加するなどすれば、子どもだけでなく親にも伝えることができるのではないかな。

- 基本方針Ⅰ⑤「防災・減災対策の強化」について、例えば大雪、地震などで旅行者が困った場合を想定して、(保育園や幼稚園の)施設で受入体制を整えた場合に加算するなど、恵庭市独自のものがあると良い。
- 留学生で子どもがいる方の支援も必要。例えば、実習と子どもの学校行事が被ってしまった場合に学童クラブの職員が受け持つなど。
- 国際結婚をした家庭を見ると、文化の違いを目の当たりにする。そういったケースを企業がシェアできれば、横の繋がりも生まれるのではないかな。

(委員 F)

- 「あるべき姿」に数値目標が入る予定はあるのか。避難所の認知度が低いと聞いたので、例えば認知度の向上などを数値目標の設定を検討してはどうか。
- 基本方針Ⅳ④「外国人市民の社会参画・政策形成への参加」について、すでに女性委員の登用の数値目標があると思うが、同じように、会議の種類によっては要綱・条例の中で一定割合の参加をルール化してもよいのではないかな。
- 基本方針Ⅳ①「多文化共生に関する市民向け講座・セミナーの実施」については、年間予定を早めに出してもらえれば参加しやすくなる。
- 基本方針Ⅲ②「外国人材の採用・受入れ支援」と③「外国人労働者の相談体制整備」について、京極町の労働者に対するハラスメントが話題になっているが、受入企業側の評価(制度)があってもよいのではないかな。

(委員 G)

- 介護施設の利用者は、日本に長期滞在していて日本語ができる方がほとんどであるため、どちらかというと受け入れる職員への対応が重要であると考えている。
- 基本方針Ⅲについて、企業と行政との連携体制構築により働く人へ情報提供することができると考える。
- 介護職員として働く外国人は、日本語を事前に学習し、来日してから介護を学ぶケースが多いが、学生が何を学んでいるのか、学校側と企業側に理解のずれがあるように思う。受入企業が学校に行って何を学んでいるのか知れるような機会があると良い。
- 基本方針Ⅰ①「生活情報の多言語化・やさしい日本語による情報提供」について、市役所の案内パンフレット言語の優先順位が書かれている。恵庭市ではこの 4 つの言語を基本にすればよいのではないかな。

(委員 H)

- ゴミの分別については、言語だけでなく、視覚にも訴える(実際に見せてあげる)とわかりやすいのではないかな。
- 言語の隔たりはまだまだあるように感じる。7 月に技能実習生のみを対象に避難訓練をした。約 70 人が対象だったが、参加者は 0。案内が十分でなかったかもしれないが、防災への意

識の薄さも感じた。その後通訳に来てもらい、防災のDVDも見てもらいながら案内したところ、先日の訓練は40名が参加した。日本人がわかるだろうと思って発信したものがいかに不足しているか痛感した。なるべくやさしい日本語で伝えたほうが良い。

- 特定技能2号は恵庭でも10名程度と伺った。こういった難易度の高い試験に合格してもらい、今後地域に残ってもらうためにはどういった支援ができるのか、市や企業、支援団体が連携して進める必要がある。

(委員 I)

- 外国人労働者は、ある程度の年数が経つと国へ帰ってしまう。その理由として、受入企業側のソフト面の教育・研修が足りていないように感じる。日本人と同じように、この会社でどうステップアップし、人生設計をしていくか、企業側の導きが足りないのではないか。日本人と同じような気持ちで働いてもらい、地域経済を発展させるためにはどうすればよいかが、今後受入企業側の課題となると感じる。

(委員 J)

- 基本方針Ⅳ③「地域コミュニティへの外国人参加促進」について、町内会と外国人とのコミュニケーションが難しいと感じる。先日盆踊りがあり、20名弱くらいの外国人が参加してくれたが、なかなか参加者が増えない。町内会の花壇の活動にも参加してもらおうと思っている。
- 子ども向けの防災キャンプを公園で実施したので、今後外国人にも参加してもらえるよう拡大していきたい。また、町内会のホームページを作成し、外国人にもイベントなどについてお知らせできるようにしたい。

(委員 K)

- 基本方針Ⅰ⑤「防災・減災対策の強化」、Ⅳ③「地域コミュニティへの外国人参加促進」について、町内会は基本的に加入した人に対して事業を実施するもの。加入するには当然、町内会費を支払う必要があり、そこが課題であると感じる。
- 例えば日本医療大学は窓口となる担当者がいるので、その人と話をしてイベントの準備を進められるが、担当者を把握していない企業の人にイベントを伝えるのは非常に難しく、市でとりまとめないと困難であるように感じる。
- 現在は町内会が留学生にイベントの提案をして参加してもらおうという構図だが、押し付けにならないよう、今後は学校側と一緒に企画するのも大事だと考えている。
- 町内会活動は個人の資質によっても左右される。すべての町内会ができるわけではない。
- 外国人から見て、多文化共生がどうあるべきなのかもっと知りたい。

(委員 L)

- 基本方針Ⅰ①「生活情報の多言語化・やさしい日本語による情報提供」については、市のあるパンフレットを拝見したが、英語以外は3~4割間違いがあった。生活情報の翻訳はしっかりネイティブチェックしてもらいたい。
- 札幌国際プラザでは、大学生のサポーターを募集していたこともあった。最初の間を作るの

は大人の手が必要だが、学生にとっては就活などで PR できるというメリットもあり、将来的に多文化共生を担う人材になりえる。

- 町内会は回覧板など紙でのやり取りが多い。LINEやメールでのやり取りができると良い。
- I⑥「住居・生活基盤の安定」については、愛知県の豊田市などはスペイン語で市営住宅の情報を公開している。先進的な自治体の視察をしてもらいたい。
- I⑦「交通手段の充実」について、自転車のマナーなどは、国や道レベルで動画作成など取り組んでもらいたい。
- 各小学校の読み聞かせボランティアは活動を組織的にしており、日本語で読み聞かせをするという活動から発展して、外国籍の子どもへの支援に発展できると良いと思う。
- II⑤「子ども・若者向けの国際交流プログラム」について姉妹都市であるニュージーランドとの交流を想定しがちだが、市内在住の外国人は姉妹都市であるニュージーランド以外のアジアの人が多い。そういった国にも子供たちが興味を持てるような仕組みがあると良い。
- IV②「国際交流・多文化共生に関するイベントの開催」については、多文化共生フェスタなどのイベントをやらなくても、外国人の方が参加してくれるのが理想。外国人向けとなると、ラジオ体操や盆踊りなど日本的なものを考えがちだが、ズンバやホッケーなど、外国で人気があり言葉がいらず国籍関係なくできるものもある。
- IV⑥「行政職員の多文化共生研修の実施」について、恵庭市の多言語対応職員は部署の垣根を越えて活動できるのが良い。活動しやすいように全庁的に整えてほしい。

(委員 M)

- イベントが形骸化しており、その後の交流が生まれにくいと思う。そのイベントをきっかけに顔見知りになるためのアフターを通して、行政には聞きにくいことなどを地域の人に聞けるような関係作りが大事。
- 地域で活動している人は年配の人が多い一方、外国人は若い世代が多い。学校間で交流会を開くなど、同年代での交流も大事だと思う。防災訓練も日本人だけ、外国人だけでまとも、若い人の交流がないという話を聞いた。大人が交流を促すのが重要。
- 交通について、冬場何時間も歩いたという外国人の話を聞いた。エコバスのキャッシュレス化は費用がかかると聞いたので、現金を使わなくて済む回数券の周知をするなど工夫してはどうか。

(池アドバイザー)

- 多文化共生は、日本人が外国人に何かをするというパターンになりがちだが、受け入れる日本側への取組が大事。日本人の子ども、高校生、大学生、市民など対象を分けて取り組む必要がある。
- 外国人を「たすけないといけない存在」と考えると、意図していなくても上から目線になってしまう。地域にコミットするための役割を何か与えるなど「何かを一緒にやろう」という視点が大事。
- 日本に来た外国人は生涯プランが見えない人がほとんどである。今後のイメージが湧くよう、ロールモデルを作ったり、明文化したり、会社の透明性を高めたりすることが必要。例えば昇

給モデルを示してあげるなど。

- 行政しかできないことは行政にお願いしつつ、私たちに何ができるかを考え、コミュニケーションを取ってネットワークを作る、友達や家族のような存在になることが大事。
- 自分たちがコントロールできる範囲でAIなどテクノロジーは使いつつ、翻訳については、最後はネイティブチェックを怠らないこと。
- 他の自治体の先進事例を参考にするのもよい。東川町は、事業者に対する動画を作りマニュアル化しているなど、参考になるものが多い。わかりやすい動画などはどんどん作成する。札幌市では、やさしい日本語のガイドブックを作成していてとてもわかりやすい。ピクトグラムも使うとわかりやすい。
- 外国人は防災訓練への参加のハードルが高い。参加してほしいのであれば、最初はインセンティブが必要。浴衣を着せてあげる、食券 1,000 円分を渡す、など。一度来てくれたら口コミで次の参加者に繋がる。
- 盆踊りに誘うなら、盆踊りの意味を教えてあげるなど、誘う方法にも工夫の余地がある。町内会についても日本独自のシステムなので、最初になぜやるのか説明することが大事。
- 同年代の人たちが集まれるような仕組みを大人が作ってあげる。同世代でしかわからない悩みなどを共有できる。
- 国際交流について、外国と聞くと、北米やニュージーランドなどを思い浮かべがちだが、市内にはアジア圏の国の方が多い。その人たちも外国人だということを子どもに教えてあげることが大事。外国人に対しても説明することを怠らないこと。

(3) その他(20:25～)

- 事務局より次回開催のお知らせ
 - 第6回 10月1日(木)18:30～えにあす 2 階 会議室 8-1、8-2
- 事務局より「えにわ多文化共生フェスタ 2026」及び「えにわ・ワールド・ファッションショー」についてお知らせ

3. 閉会(20:30)